

令和6年度岩手県立住田高等学校 第1回学校運営会議 会議録

令和6年6月25日(火) 15名参加
住田町農林会館多目的ホール

1 学校運営協議会制度説明(三上副校長)

2 学校運営協議会

(1) 開会のことば(邑サポート代表 奈良朋彦副会長)

(2) 校長あいさつ(伊藤校長)

子どもたちや学校を取り巻く環境が複雑化・多様化するなかで、社会総がかりでの教育が求められている。住田町にはその環境がある。求める教育を実現するため、社会に開かれた学校にとどまることなく、地域と一体となって子どもたちを育む名実ともに「地域とともにある学校」の実現が必要。協議会委員の皆様からのご意見が学校を変えますので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

(3) 自己紹介

(4) 協議

ア 学校運営協議会規約について(三上副校長)

- ・協議会の主な役割、委員は特別職の地方公務員扱いとなること等を説明、承認を得る。

イ 会長・副会長選出(三上副校長)

- ・事務局より松高会長、奈良副会長を提案、承認を得る。

(5) 報告(進行 住田町教育委員会教育長 松高正俊会長)

ア 令和6年度学校経営方針ならびに経営計画について(伊藤校長)

- ・今年度は特に、「共生」を生徒・職員の重点目標とする。
- ・生徒たちが安心安全に暮らすために、いじめの未然防止・早期発見に努めたい。
いじめアンケートを生徒4回、保護者2回実施していく。
- ・生徒たちのキャリア形成に向けた適切な生徒指導による進路希望の実現を今年度重点的に行う。5月のTSUBASAモデル策定を受け、教職員による不適切な指導の根絶も重点的に進める。教員が生徒にとっての良き伴走者でありたい。
- ・地域創造学最終年、9月の公開に向け、本校の柱として魅力化を図っていく。

(質問・意見)

- ・(住田中学校 遠山校長) 特色入試での、地域創造学プレゼンを評価する等の入試の形について、令和8年度以降検討する予定はあるのかお聞きしたい。

(伊藤校長) 今年度、気仙地区で特色入試を実施するのは高田高校1校のみ。今後、学校として探究に重点を置くとなればカリキュラム検討もこれから必要となる。令和8年度以降については持ち帰って検討を進めたい。

イ 令和5年度各分掌の現状と課題及び令和6年度計画について(三上副校長)

- ・式典等について、生徒減少に合わせた係り分担や業務削減を総務担当で検討している。
- ・校則改定、整容確認、総合運動部・文化部等、生徒主体の活動を生徒指導担当で促している。
- ・次年度の教育課程の検討を教務担当で行っている。
- ・進路決定100%達成に向けて、進路担当での継続的な指導を行っている。
- ・外部専門機関と連携しながら、メンタルサポートやコグトレ等を厚生相談担当で行っている。
- ・各分掌と協力しながら、生徒のより良い学習環境整備を事務担当で行っている。

(質問・意見)

- ・(住田町教育委員会教育長 松高正俊会長) S A P、コグトレについて説明してもらいたい。
※S A Pとは SUMITA ADVENTURE PROGRAM の略称
※コグトレ® (Cog-Tr) とは、認知 ○○ トレーニング (Cognitive ○○ Training) の略称
(三上副校長) S A Pは、年3回スクールカウンセラーを講師に迎え、よりよい生活づくりを図る活動を実施しているもの。教育振興会教育相談補助事業の一つになっている。コグトレは認知機能を強化するためのドリルのことである。プリント、オンライン等で朝学習時間に実施。
- ・(住田町商工会会長 千田明夫様) 住田高校では海外派遣等の活動もさかんに行っているのので、盛岡の国際交流協会とも連携して、月に一度は交流し多文化を知る機会を作ってはどうか。地域と学校とのつながりで国際交流活動を行っている姿など、地域に見えるようにしてもらいたい。
(伊藤校長) コーディネーターとも連絡を取り合い企画していきたい。また、学校の様子が地域に見えるよう、可視化できるようにしていきたい。
- ・(世田米公民館館長 菅沼千恵子様) 公民館企画については、コーディネーターさん経由でこれからも協力を依頼したい。進路担当の令和6年度新年度計画で、卒業生の事後指導の充実とあるがどういったものか。
(三上副校長) 卒業時に進路が未決定であった者がいた場合、卒業後も進路指導を継続して行っている部分が事後指導に該当。また、卒業生の進学先、就職先での様子を窺う等も含まれる。
- ・(同窓会長 千葉修悦様) 同窓会基金を様々な用途で活用してもらいたい。ふるさと創生大学でも数々の企画があるので高校にもチラシを配り周知したい。また、創生大学では京都大学での学会を毎年実施している。今年度は2月予定なので、できればそこに住田高校生を参加させたい。
- ・(P T A会長 泉田広明様) 住田高校には、これまでどおりの教育と生徒たちのふれあいを重視してもらいたい。
- ・(邑サポート代表 奈良朋彦様) 令和4年度に打ち出された「共生」が年を重ねるにつれ形になってきていると感じる。地域には良き伴走者がたくさんいて、飛び出す場もたくさんあるので飛び込んで行って欲しい。住田高校は多様な進路に応えられている学校だと思う。

ウ 令和5年度住田高校教育振興会事業について (三上副校長)

- ・第27回海外派遣事業についての報告
- ・スタディサプリーについての説明
- ・令和6年度第28回海外派遣事業についての連絡 (住田町教育委員会教育次長 多田裕一様)

(質問・意見)

特になし

(6) 意見交換・質疑応答

(5) にて済

(7) その他 (副校長)

- ・住高に入学を決めたきっかけについて (「教えて、住高生」結果紹介)

(8) 閉会のことば (邑サポート代表 奈良朋彦様)